

新社屋のコンセプト

2009年12月に竣工した名工建設枇杷島新社屋では、建設にあたって3つのコンセプトを掲げた。

1——環境配慮設計

温室効果ガス排出量削減のため、環境改善塗料や省エネ型照明器具、節水型便器・無水小便器、太陽光発電、ナイトパーズ、雨水利用など、さまざまな環境配慮を駆使した設計とした。

2——災害対策本部

災害時に復興拠点としての役割を果たす施設とした。

3——営業ツール

新社屋1階に誰もが入ってこられるプレゼンテーションコーナーを設けた。そこでは、当社が保有する技術、新社屋に採用した技術を展示し、また各種の技術をモニタリングするなど、建物自体をショールームとして機能させ、企業の姿勢を明確にするとともに、アピールにも一役買っている。

無水小便器採用の理由

新社屋に採用した技術の中で、環境配慮と営業ツール、その両方を兼ね備えているのが“太陽光発電”と“無水小便器”の技術である。無水小便器については、当社の社員数の使用量から見て、コスト面でのメリットを立証するにはもうしばらくの時間が必要であるが、それを承知の上で採用するに至った理由は、社員の環境意識向上に有効だと考えたからである。機器には「この小便器は洗浄に水を使いません。」というプレートを取り付け、“水を使っていないトイレ”を認識させているが、この効果については、すでに実証されたと言っても過言ではない。一方、当社の人間は日常的に無水トイレを使用しているため、営業面での説明にもおのずと説得力があると聞く。逆に、お客さまが当ビルにご来社いただいた際は、ご自身で直接ご確認いただけるため、営業ツールとしても、かなり有効である。ちなみに、無水小便器の他にも応接室の壁のマイナスイオンの出る仕上げ材など、社内の随所に採用されている技術を説明したプレートを取り付け、社員の意識づけに効果を発揮している。

ニオイと掃除について

採用するにあたって、一番気になったのはニオイの問題である。しかし社員からは「今までの水洗のトイレよりにおわない」、「こんなにニオイがないとは思わなかった」という声が多い。また、掃除は1日2回、朝はしっかりと全体清掃、夕方は点検程度の拭き掃除を実施している。掃除担当者に感想を聞いたところ、「水で



1——枇杷島新社屋全景 | 2——1階のプレゼンコーナーでは、新社屋で採用した技術を紹介している | 3——無水小便器・機器の右上には技術を説明したプレート | 4——基準階男子トイレ | 5——「この小便器は洗浄に水を使いません。」のプレート

こぼやしよしのぶ——名工建設建築本部設計部長兼建築技術部長 / 1950年生まれ。1973年、名工建設入社。東京支店建築部長を経て現職。

流す掃除に慣れていたので、当初は戸惑いがあった」という話だったが、慣れるにつれて、抵抗感は無くなったと語っている。

モニタリングについて

5階トイレは従来の小便器を設置し、量水器や人数カウンターなどを使って、無水小便器フロアとの水量の差をモニタリングしている。まだ入居して間もないため、無水トイレとの水量の差を比較したデータは取れていないが、多くの方が利用する駅などで採用すれば、節水効果は短期間で明白になるだろう。

無水小便器採用の波及効果

無水小便器の採用は大きなチャレンジだった。しかし、採用した多くの技術の中で、自身が体験することができ、また、その効果が目に見えるため、インパクトはかなり大きかったと思う。また、無水小便器をきっかけに、社内や家庭での会話に“環境”の話題が出るようになり、営業においても、“環境技術”という観点から話題が広がっていくきっかけになれば、ささやかではあるが、環境意識の向上に役立ったといえる。当社での採用をきっかけに、多くの人の環境に対する意識が向上することを願っている。